



PICK
UP

沼津児童の作品を展示しました

おね
がい

院内の感染対策に
ご協力をお願いします！

受賞作品 書写5点・絵画5点



当院1階ホールに、期間限定で
児童の絵画・書道の作品を展示
しました。

子どもたちの素晴らしい作品を
ご覧になった方々から「迫力がある
ね!」「鮮やかだね♪」などの声
をいただきました。どの作品から
も、真剣に絵画・書道に取り組む
児童の姿勢が感じられる展示会に
なりました。

入館する際には、政府指針になら
ないマスクを着用し、入口で体温測定と
手指消毒を行ってください。発熱等の
症状がある方は、初診受付にお声か
けください。引き続き感
染防止対策にご理解・
ご協力をお願いします。

今号の
表紙

歯科口腔外科の
スタッフ



大岡小学校 5年 長谷川愛麻さん

【審査員評】
基本点画が丁寧でとても美しく、
字形が整っています。半紙いっぱいの文字と余白
のバランスが良いです。伸び
やかに書かれた名前と共に、
理想に向かって歩む力強さを感じられます。



今沢小学校 4年 平林祐明さん

【審査員評】作品名「導く魚」
魚と植物を題材にした不思議な
絵です。背景のグラデーション
以外は細かいタッチで描き
込み、独特の世界を表してい
ます。あたたかみのある色
と爽やかさのある色を使い分
け、豊かで想像力あふれる作
品となりました。

PICK
UP

こうくうねんまくしっかん
口腔粘膜疾患について

口腔粘膜疾患は、口唇・舌・歯肉・頬粘膜・口蓋・口底などに、びらん、潰瘍、腫瘍、腫瘍、水疱などの症状が現れる疾患です。口腔粘膜は、唾液により湿潤し保護されていますが、歯や食物などによる機械的および湿度的刺激を受けやすいため、局所の安静が保ちにくく症状が変化しやすいことが特徴です。



口内炎	口腔中の粘膜の炎症です。
こうくうへんべいたいせん 口腔扁平苔癬	白くレース状または網目状の模様をしています。
こうくうはくばんしょう 口腔白板症	白い板状のものです。拭いてもこすってもとれません。
口腔がん	口腔の中にも「がん」はできます。それを口腔がんといいます。舌がんは口腔がんのうちで最も多くみられます。

症状にはさまざまなパターンがあり、悪性化のおそれもあるため、自己診断は危険です。軽い口内炎でも、別の病気が隠れている場合もあります。「口内炎が2週間以上経っても治らない」、「舌の動きが悪い」、「飲み込みづらい」などの症状があるときは、早めにかかりつけ医の診察を受けましょう。



沼津市立病院

NUMAZU CITY HOSPITAL

— 市民のために 共に歩む病院 —

沼津市立病院広報誌 「ぬまピタル vol.25」
発行：広報委員会・病院管理課企画係
ぬまピタルバックナンバーはこちら →



〒410-0302 沼津市東椎路字春ノ木 550 番地
Tel：055-924-5100（内線 2370）
Mail：byoin-so@city.numazu.lg.jp
ホームページアドレス：https://www.numazu-hospital.shizuoka.jp/

インプラント治療について

歯科口腔外科部長 岩重 洋介 医師



Profile
1985 年日本歯科大学卒業。日本歯科大学附属病院での勤務を経て 1995 年から沼津市立病院歯科口腔外科勤務。
趣味はゴルフ
(資格)
・歯学博士
・日本口腔外科学会専門医・指導医
・歯科医師臨床研修指導歯科医

近年、入れ歯やブリッジに次ぐ第三の治療法として、「歯科インプラント」という言葉をよく耳にするようになりました。入れ歯やブリッジで不自由している方は、歯科インプラントを検討してみるのも良いかもしれません。

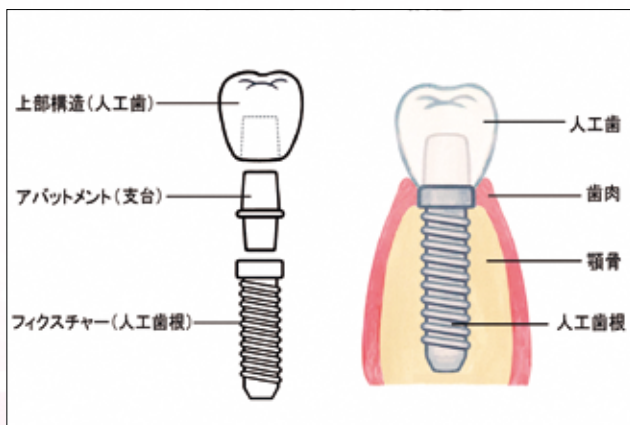
今回は、インプラント治療について、歯科口腔外科の岩重医師が解説します。

Q・歯科インプラントとは何ですか？

A・「インプラント」は「歯科の治療」というイメージを持つ方もいるかもしれませんが。しかし、インプラントは、「体内に埋め込む医療器具・材料」を指し、歯科以外でもインプラントという単語は使用されています。心臓のペースメーカーや美容整形で用いるシリコンなどもインプラントの一つです。

ちなみに、インプラントは英語で「Implant」と綴り、和訳すると

歯科インプラントの構造



「植え付ける」「差し込む」「移植する」などとなります。歯科領域では、あごの骨に埋め込む人工歯根をインプラント、正しくは「歯科インプラント」と呼びます。インプラントは、歯科で扱う機会が他の診療科と比べて多いことから、一般的に「インプラント」は「歯科インプラント」と認識されています。

Q・インプラント治療は誰でも受けられますか？

A・誰でもインプラント治療が受けられるか：というと、そうではありません。インプラント治療は手術が必要のため、全身状態が思わしくない方や、インプラントを埋め入れる予定部位のあごの骨が丈夫でない場合は、治療を受けられないケースがあります。また、高血圧症や心臓疾患などの循環器系疾患、喘息などの呼吸器系疾患、糖尿病や骨粗しょう症などの既往歴がある方も注意が必要です。その他、歯周病などの基礎疾患がある方は、担当医師に相談しましょう。

Q・インプラントのメリットとデメリットを教えてください。

A・インプラントの最大のメリットは、人工歯をしっかりと固定し、根っこの機能を回復できるため、本来ある自分の歯のような感覚で噛めるようになることです。また、外れてしまうおそれが軽減され、異物感なく話せるようになるだけでなく、人工歯にセラミックやジ

ルコニアなどを使うことにより、天然の歯とほとんど変わらない見た目になります。その他、インプラント治療は、あごの骨に人工歯根を埋め込むため、咀嚼すると骨まで刺激が伝わります。日々、咀嚼して刺激を与えることで、あごの骨の健康を保つことができます。

一方、デメリットとしては、保険適用外治療となるため治療費が高額になる、治療期間が長くなるなどが挙げられます。

Q・治療期間はどのくらいですか？

A・インプラントの治療期間は、下あごのインプラントで約6か月、上あごのインプラントで約6か月〜約1年が目安とされています。これは、インプラントを埋め入れしてから、人工歯根と周囲の骨が結合するまでに、約3〜6か月ほどの期間がかかるためです。

Q・治療前にはどのような検査をしますか？

A・インプラント治療は、外科手術に分類されるため、治療したいと思っても、すぐに始められるも

術前のレントゲン写真



術後のレントゲン写真



Q・手術に痛みはありますか？

A・インプラント埋入手術は、麻酔を使用して行います。一般的に

歯科診療のように局所麻酔で行う場合がほとんどですが、不安感の強い方、緊張して血圧が上がりやすい方は、全身麻酔で手術を受けることもできます。

Q・手術後のメンテナンスについて教えてください。

A・インプラント埋入手術を受けたあとは、定期的なメンテナンスと歯周病予防が必要です。適切なケアを行わないとインプラント周囲炎を起こしやすくなるため、予防のためにも、術後1か月、3か月、6か月、1年…と定期的なチェックが必要です。その後、問題がなければ、年1〜2回程度の定期受診になります。

読者にメッセージを

インプラントは、天然歯と同じくらいの咀嚼力があり、見た目も自然なことから、インプラント治療を選択する方が増えています。当院でインプラント治療を希望される方は、歯科医師からの紹介状が必要となります。まずは、かかりつけ医に相談しましょう。